



嬉泉の新聞 第53号 2003年(平成15年)11月発行(年3回発行)

発行所=社会福祉法人嬉泉

東京都世田谷区船橋1-30-9 (〒156-0055) TEL 03-3426-2323

<http://www.kisenfukushi.com> E-mail:kisen@kisenfukushi.com

発行人=石井哲夫 編集人=小山裕子

「インクルーシブ保育・教育について」

植草学園短期大学 教授 寺山 千代子

最近の教育・福祉に関するニュースレターや報告書などを読むと、外来語が日本語訳されないまま日本語化され使用されている例が多くなった。ある報告書を読んでいると、「チームティーチング、インテグレーション、コミュニケーション、ソーシャルスキル、メインストリーミング、インクルージョン、ニーズ、レパートリー、ストレス、アドバイス」などなど。これらの用語は、解説がなくても通用し、日常的に使用されている。

このような用語のなかから、インクルージョン(inclusion)について考えてみたい。その理由は、ある幼稚園のインクルーシブ保育の実践について、一緒に考える機会が与えられたことによる。

inclusionとは、include(動詞)の名詞形であり、意味としては「包含(すること、されること)」であり、教育・福祉で用いられるときには、「みんなを込み含めて」つまりみんないっしょにという意味で用いられている。具体的には、障害のある、なしにかかわらず、みんないっしょにという意味である。用い方としては、上記のようにインクルーシブ保育、インクルーシブ教育というようになる。

保育の分野で、この用語に近いものとして「統合保育」がある。統合保育は、インテグレーションともよばれ、integrate(統合する)の名詞形として「integration」がある。この用語が用いられた背景として、ノーマライゼーションの理念の広がりがあげられよう。ところが、

ようやく「統合保育」という用語が保育の分野で定着してきたように思われた時期に、新しく「インクルーシブ保育」の用語が使われ始めた。新しい用語を使うと、新しいことができたようを感じるかもしれないが、用語にふさわしい支援が支援を必要とする幼児に的確に行われないと、発達が保障されないことになる。

そこで、インクルーシブ保育にあたって、次のような点を押さえておく必要がある。

まず、多様な幼児に対応できる準備が必要になる。支援を必要とする幼児に必要な支援や必要なプログラムの提供ができること、クラス編成にあたって保育可能な人数であること、支援のための空間の確保ができること、支援に関する情報・技法などを習得した保育者がいること、そして本人にとって安心していられる場であることなどが大切となる。

インクルーシブ保育を実践した幼稚園は、小さい園なので、保育者が柔軟に子どもたちにかかるわれたこと、職員全員でインクルーシブ保育についての共通理解ができていたこと、支援を必要とした幼児の障害の程度が軽かったこと、良好な友だち関係が保てたことなどにより、一応の成果をあげることができた。

今後もこの方向を目指すとすると、支援を必要とする幼児に必要とする支援が提供できるように、広い意味での環境(ハード面・ソフト面)の整備を行っていく必要があろう。

特別な支援が必要な場合には、他の専門機関との連携も視野に入れておくとよいであろう。

社会福祉援助論

石井 哲夫

- その16 -

福祉援助評価をめぐって

その1

支援費を取り上げてきた前号から、本号から「福祉援助評価」に向けてみたい。その最大の理由は、福祉援助の質の向上という根幹の課題を再認識することを重視したからである。くどいようであるが、今回の福祉改革は、政策的・財政的・行き詰まりから発生してきた。それは福祉援助構造を変えないで、福祉ニーズに対応していけないという財政上の行き詰まりを知ったからと言っている。財政上のマキシマム（最大限度）な水準を設定した上で、その中で経済的に効率的な方策を模索していくと言う意味で、今回の政策転換に踏み切ったものと考えている。もちろんお金かかる福祉援助を、仕組みを考えないで、無限に広げていくことは許されないことであって、当然ながら社

会福祉を摸索していくという事が求められてくるものであろう。

この際財政的な裏付けをしないままに、社会主義的な国家による保障を切り崩していく政策として、地域行政の責任による支援費制度に移行していくく方向に好意を感じた人は少なくなかつたと思う。蓋を開けてみると、実情把握が進まない状況での急激な制度転換は不可能で、発足当初は、措置制度を下敷きにしたモード転換を行うことになつていている。これは致し方ないことと同情している。この制度転換は、システム上の転換が優先しているので、その結果はやつてみなければわからないと言うようなものである。

現場で頑張っている社会福祉援助者たちが、この制度移行に期待したことは、支援費制度となることで、利用者援助の実態が見えて来るのではないかということであつた。そしてそこから、今まで見

えなかつた措置制度における社会福祉援助の苦勞やその質の違いなどが見えてきて、経済効率の悪い

均質的な制度が改善されてくるのではないかということであった。

行政当局にしても現実の社会福祉援助が見えないで政策立案を行

うよりも、実際に、福祉援助の必要性に対応していない援助活動の実情を知つて、これを改善できるようになることを望んでいると思

う。しかし実際に始まつてみると措置制度によって出来てきた安定感が崩れる事への不安定感を感じさせたり、支援費審査基準にも問題点が少なからずあることを感じたりするようになつてきている。

これから少しずつ改善はされて行くであろうが、まだサービスの実質的な改善の兆しが見えてこない。このような改革の意義に関しては、これからも信じていきたい気持ちであるが、心配なことは、サービス提供者の質の評価を行うことが出来るかどうかということである。このような評価ができる機関を作

ること、このように改めて改めてこの改革の意義を理解して、これからも信じていきたい気持ちであるが、心配なことは、サービス提供者の質の評価を行うことが出来るかどうかということである。この評価ができる機関を作

ると言ふが、すぐには、いまの地域行政に期待できないという実情がある。しかも今や中央行政では、地方分権という風潮において、あって統一的なことを行おうという気迫に欠けている。

厚生労働省では社会福祉改革を先導している社会援護局が、全国社会福祉協議会において第三者評価機関構想を実施していく研究を行ひ始めているが、ここに私は、密かに期待しているのである。

このことは、かなり前にも似たような経験をしたことがあったからである。

それは、強度行動障害委託事業をはじめた時に、強度行動障害を必ず良くすることが出来るように委託基準を作成して、対応できる施設や法人を捜すという私たち関係者の提案も、直接担当の部局において当初は賛成されたにもかかわらず、結局は実現不可能となってしまった事である。そのことから考えても今日の状況では、尚更無理な考え方だと思っている。

しかしながら今回の大胆な発想を政策論として呈示してきて、行政の改革を進行しようとしているのであれば、現場を預かる臨床側としての提言は、全国的に統一的に通用する第三者評価機関の適正なというか実効性のある制度を構想し、実現させて欲しいと思う。かくいう私が関係している「児童福祉施設等の第三者評価事業」は、臨床側の結束をうたつて始められているものなのである。

すこやか広場

津留 明子

すこやか園では、地域のお子さんとお母さんたちに、月に三回園庭を開設しています。それが、「すこやか広場」です。地域のお子さんとお母さんに保育園に来てもらいたい、保育園の子どもたちと一緒に遊び、保育園の生活を知つてもらうこと、またお母さんとお話をする中で、育児の疑問に応えていくことなどを行っています。

保育園の社会的役割として、保育園に在園するお子さんとその保護者の方への支援だけでなく、地域の子育て家庭への支援も今は重要なこととなっています。

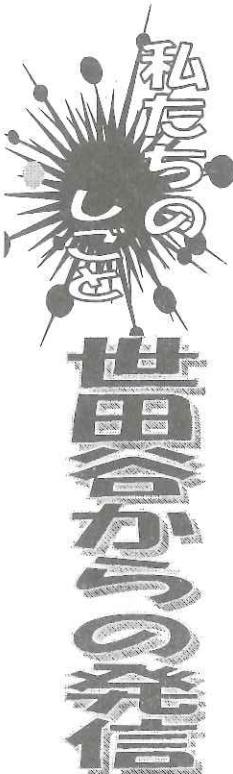
地域の子育てパンフレットに「すこやか広場」の情報を載せていますが、参加者は、口コミでの参加が多く、一度来た方がお友達を誘つてきてくれることで少しづつ増えています。また、保育園に

すこやか広場

津留 明子

すこやか園では、地域のお子さんとお母さんたちに、月に三回園庭を開設しています。それが、「すこやか広場」です。地域のお子さんとお母さんに保育園に来てもらいたい、保育園の子どもたちと一緒に遊び、保育園の生活を知つてもらうこと、またお母さんとお話をする中で、育児の疑問に応えていくことなどを行っています。

保育園の社会的役割として、保育園に在園するお子さんとその保護者の方への支援だけでなく、地域の子育て家庭への支援も今は重要なこととなっています。



♪シャボン玉とんだー♪

入りたいと思う親御さんが、見学に来て「すこやか広場」を知り、参加することもあります。今年度は、五月から毎月、第一、第二、第三水曜日にすこやか広場をやっています。十月一日までで、延べ23組の地域の方の参加がありました。ほとんどが0、1、2歳児のお子さんをもつ方でした。初めての参加の方にはアンケートをお願いしています。

アンケートより抜粋

思つたより小さかったので驚きましたが、少人数制で保育士さんが多くて、とても良いと思いました。

(2歳児・母)

先生方が子どもに接する姿を見て大変勉強になりました。今後も、園庭での保育参加を希望。(2歳児・母)

友達がたくさんいてとても楽しそうでした。建物もきれいで遊具も整っていて伸び伸び遊べそう。明るいイメージ。(2歳児・母)

眠くてぐずっていましたが、シャボン玉に興味津々でした。他のお子さんがいても泣かないで良かったです。建物がきれいでいいですね。

先生方も親切で良かったです。伸び伸びと楽しくあそべました。明るく、開放的、家庭的。今後も保育参加希望。

(7ヶ月・母)

伸び伸びと楽しんでいました。明るく、開放的、家庭的。今後も保育参加希望。

(2歳児・母)

まずは、「すこやか広場」に来てもらうこと、そして保育園をつてもらい、保育園に気軽に来られる関係を作りたいと思っています。私たちは、「すこやか広場」を通して「一緒に子育てをしていきませんか?」そして、「ぜひすこやか園を利用してください」のメッセージを伝えていきたいと考えています。

(すこやか園)



お母さんも一緒に砂遊び



みんなのあかり灯

楠岡 里美

更生の活動で力を入れて取り組んでいることの一つに「創作活動」があります。一言で「創作」と言っても活動内容は非常に多岐に渡っています。利用者さんそれぞれに好きなこと、得意なこと、熱中できることが見つけられるよう、職員は根気強く試行錯誤をしています。

創作活動の魅力はみんなが同じものを作っていても、段々とその作品の中にそれぞれの個性が滲み出てくることです。丸一つ描いただけでも、丸の大きさ、筆圧、勢いなど、その人らしさが色々と感じられます。一緒に作った職員もできあがった作品には、一生懸命に作った利用者さんの姿も重なり、本当にいとおしいものを感じます。

八月に西武デパートで開催された障害者総合美術展に、私達たのしみグループでは「みんなの灯」

という名のランプシェードを出展しました。

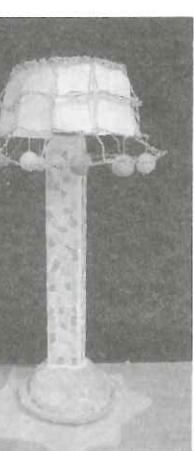
私たちは、限られた時間の中でグループのみんなが一つになれるような物はないかと考え、日々積み重ねてきているものとして創作活動をクローズアップしました。今行っている創作活動は、「陶芸」「フェルト」「タイル」「ビーズ」の4つがあります。一つ一つの創作活動の中でみんなが今していることを生かすことができないだろ

れだし、ランプシェードの支柱はタイルで出来ないか? 土台は? かさは? 等と次々にデザインが見えました。そして、陶芸に参加しているみんなで土台を作り、支柱となる木にタイルを貼り、ビーズでかさを作り、フェルトでかさを飾ろうという方向に動きだしました。

それぞれの創作の担当職員が美術展に出演する作品をみんなで作るということに意識を向け、それが作品を作り上げる為に工程や作業を通して、今支援している作業を通じて、陶芸で作った土台の焼き上がりが間に合うのを上げて、子どもが大喜びするようにはしゃいでしまいました。みんなの力と、みんなの情熱を結集したことが、見るひとの心を動かすことができたのだと思つていま

赤塚からのお発信

か…… そんな思いの中で「ランプシェード」を思いついたのです。それは本当に電球に明かりがピカーンと着いたようにひらめいたのでした。そこからどんどんみんなの思いも溢れだし、ランプシェードの支柱はタイルで出来ないか? 土台は? かさは? 等と次々にデザインが見えました。そして、陶芸に参加しているみんなで土台を作り、支柱となる木にタイルを貼り、ビーズでかさを作り、フェルトでかさを飾ろうという方向に動きだしました。



ランプシェード
～みんなの灯～

袖ヶ浦のパソコン・ネットワーク
一尾 弘志
学校や病院、新聞社等、パーソナルコンピューター、いわゆる「パソコン」が導入され、「紙」を使わない記憶媒体・ネットワーク化が進んでいます。「今後の福祉施設にはネットワークシステムが必要」といわれ、福祉施設も例外ではありません。

袖ヶ浦のびる学園・袖ヶ浦ひかりの学園でも、「株式会社正木設計・マウント」の協力を得て、パソコンによる本格的なネットワー

クシステムが導入されました。それにより、①契約制度での請求業務②請求業務に必要な日々のデータ入力③日々の利用者の処遇記録作成④処遇記録を元に施設内書類及び監査資料の印刷⑤会計・給与・栄養管理等の従来の業務等をパソコンで行います。

また、ネットワークの構成によ

袖ヶ浦のパソコン・ネットワーク

一尾 弘志

学校や病院、新聞社等、パーソナルコンピューター、いわゆる「パソコン」が導入され、「紙」を使わない記憶媒体・ネットワーク化が進んでいます。「今後の福祉施設にはネットワークシステムが必要」といわれ、福祉施設も例外ではありません。

袖ヶ浦のびる学園・袖ヶ浦ひかりの学園でも、「株式会社正木設計・マウント」の協力を得て、パソコンによる本格的なネットワー

クシステムが導入されました。

それにより、①契約制度での請

求業務②請求業務に必要な日々の

データ入力③日々の利用者の処遇

記録作成④処遇記録を元に施設内

書類及び監査資料の印刷⑤会計・

給与・栄養管理等の従来の業務等をパソコンで行います。

また、ネットワークの構成によ

り、①業務の分散化（会計・給与・請求・記録等個別に処理を行う）②情報の一元管理（サーバー設置による管理・バックアップ）③複数同時処理の業務（必要に応じたアプリケーションでの処理が可能）④資源の共有等のメリットがあります。

支援員の業務も「利用者記録」だけでなく、事業計画、会議録、仕事依頼、等、パソコン上の「共有フォルダ」から書式を取り出し、記入することができます。

以前は、膨大な「紙」：日誌や

日々の記録用紙の中から、データ

を拾わなくてはなりませんでした。

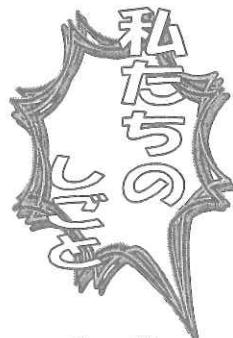
しかし、パソコンでデータ化する

と、例えば、Aさんの平成〇〇年〇

月〇〇日の記録が瞬時にパソコン画面に出できます。また、支援員の

Bさんがどんな記録を書いている

のか分かりますし、Cさんの記録で、「食事」という「言葉」を検



袖ヶ浦からのお見信

り、①業務の分散化（会計・給与・請求・記録等個別に処理を行う）②情報の一元管理（サーバー設置による管理・バックアップ）③複数同時処理の業務（必要に応じたアプリケーションでの処理が可能）④資源の共有等のメリットがあります。

支援員の業務も「利用者記録」

だけでなく、事業計画、会議録、

仕事依頼、等、パソコン上の

「共有フォルダ」から書式を取り

出し、記入することができます。

以前は、膨大な「紙」：日誌や

日々の記録用紙の中から、データ

を拾わなくてはなりませんでした。

しかし、パソコンでデータ化する

と、例えば、Aさんの平成〇〇年〇

月〇〇日の記録が瞬時にパソコン

画面に出できます。また、支援員の

Bさんがどんな記録を書いている

のか分かりますし、Cさんの記録で、「食事」という「言葉」を検

けです…。

情報の共有は、保護者やご家族

の方にも利用者の「支援計画」を

開示する情報公開もあります。

一方で、「住基ネット」で言わ

れているように、セキュリティの

問題等、クリアしなければならな

い課題はあります、「パソコン」

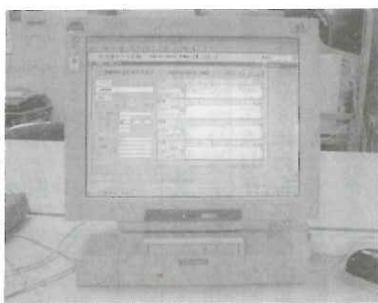
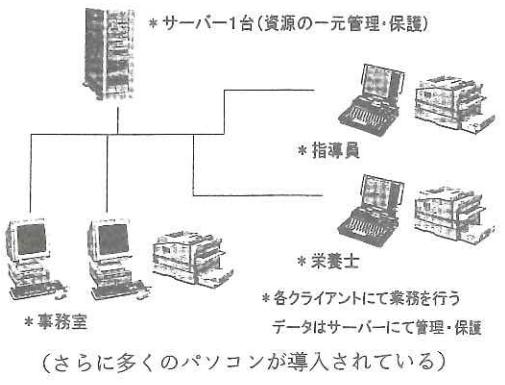
が仕事をするために欠かせないツール

になってきたのは確かです。

「パソコン」上でも「紙面」上

でも「記録」を書く、残すことは、自分がどういう「仕事」をしたのか…という証であります。いつどこで、だれが、なにをした…そのとき支援員は、どういう考え方で、どういう「かかわり」をしたのか？どうしその結果どうなったのか？どうしてそうなったのか？今後どうするのか？など、など。「機械」は便利になつても、記録を書くための頭を抱える機会は変わらないようです…。

とにかく「利用者のためにはどうするのか？」このことを忘れないとすれば、ネットワーク化のメリットがより強調され、パソコン利用の幅が広がると考えてています。（袖ヶ浦ひかりの学園支援員）



今日もパソコンに向かう（利用者記録は日常・医療・特別・作業と項目が多岐に亘る）

嬉泉トピックス

催し物のご案内

◆高機能広汎性発達障害セミナー

日時：平成16年

1月17日(土)・18日(日)

会場：主婦会館プラザエフ

テーマ：「高機能広汎性発達障害の基本的理解を深める～医療・心理・福祉の立場から～」

講師陣：石井哲夫・山崎晃資・十

講師陣：石井哲夫・山崎晃資・十

一元三・辻井正次・小山裕子

(出講順)

受講料：12000円

定員：150名

（定員になり次第締め切り）

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

0438・62・9121

◆発達障害療育研究会

第8回研究集会

日時：平成16年1月24日(土)

会場：文京学院大学

テーマ：「LD、注意欠陥／多動

本郷キャンパス

受講料：無料

性障害、高機能広汎性発達障害の特別支援教育」

講師陣：石塚謙二・石井哲夫・白

龍貞昭・有澤直人・高山恵子・

加藤正仁・高橋彰彦・大見川正

テーマ：「高機能広汎性発達障害の基本的理解を深める～医療・

心理・福祉の立場から～」

講師陣：石井哲夫・山崎晃資・十

一元三・辻井正次・小山裕子

（出講順）

受講料：正会員

臨時会員

03・3426・2323

定員：150名(1月16日締め切り)

*お問い合わせ

子どもの生活研究所

03・3426・2323

◆第26回嬉泉祭りバザー

日時：平成16年2月29日(日)

会場：袖ヶ浦のびる学園

ひかりの学園

0438・62・9121

◆TOSCA療育講座

日時：平成16年3月13日(土)

会場：白梅学園



平成十六年度職員募集

社会福祉法人嬉泉では、来年度の新人職員を募集しています。

嬉泉で働きたいという意欲の方をご紹介ください。

*お問い合わせ

嬉泉本部(担当：谷田・小池)

10月4日(土)・5日(日)に

第39回嬉泉バザーのご報告

第39回嬉泉バザーが開催されました。

今年も2つの会場でバザーを開催しましたが、両日とも良いお天気になりました。

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

0438・62・9121

◆アトリエAUTOS

2004年カレンダー販売中

アトリエAUTOSの作品を絵柄にしたカレンダーです。カレンダー部分を切り離すとポストカードとしてお使いいただけます。

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

0438・62・9121

◆第39回嬉泉バザーのご報告

10月4日(土)・5日(日)に

第39回嬉泉バザーが開催されました。

今年も2つの会場でバザーを開催しましたが、両日とも良いお天気になりました。

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

ひかりの学園

0438・62・9121

アトリエAUTOS

からのお知らせ

ただいた、たくさんの方々のご支援のおかげだと思っております。この場を借りてお礼を申し上げます。

講師：石井哲夫
*お問い合わせ

東京都自閉症・発達障害支援センター

http://www.tosca-net.com
03・3426・2318

アトリエAUTOS

からのお知らせ

ただいた、たくさんの方々のご支援のおかげだと思っております。この場を借りてお礼を申し上げます。

*お問い合わせ

嬉泉本部(担当：谷田・小池)

10月4日(土)・5日(日)に

第39回嬉泉バザーのご報告

第39回嬉泉バザーが開催されました。

今年も2つの会場でバザーを開催しましたが、両日とも良いお天気になりました。

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

0438・62・9121

◆アトリエAUTOS

2004年カレンダー販売中

アトリエAUTOSの作品を絵

柄にしたカレンダーです。カレン

ダー部分を切り離すとポストカ

ドとしてお使いいただけます。

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

0438・62・9121

◆第39回嬉泉バザーのご報告

10月4日(土)・5日(日)に

第39回嬉泉バザーが開催されました。

今年も2つの会場でバザーを開催しましたが、両日とも良いお天気になりました。

*お問い合わせ

袖ヶ浦のびる学園

0438・62・9121

お題其ノ七

『人事考課①』

事務局長 石井 啓

Q 売…人事考課とは何ですか?

A 売…人事考課は、職員の「育成」や能力開発のための情報や材料を得ること」と、「人事待遇を公正に行うための情報と材料を得ること」を目的として、組織が求める「期待する職員像」の基準を具体的に示し、その基準に従って、職員の「仕事の成果(実績)」や、「仕事への取り組みの姿勢(情意)」、「職務遂行能力(職能)」等を評価するものです。

これまでの人事管理は、いわゆる「年功主義」の人事基準で行われてきました。つまり、年齢や勤続年数、学歴・免許といった職員の属性に基づいた集団的

特に福祉職場では、対人援助サ



度の整備が十分でないため、職務経験だけが、職員の給与待遇を決めるための、殆んど唯一の尺度でした。

しかしこれからは、職員ひとりひとりの能力や成果、職務や役割に着眼する新しい人事基準が必要であると思われます。人事考課は、そうした個々の職員の能力や成果を公正に評価するために不可欠な条件です。

Q 嬉泉には、「人事考課制度」がありますか?

A 式…はい、あります。平成十二年一月から導入しました。それまでに嬉泉でも、前述のような「年功主義」の弊害が出てきていました。例えば、経験年数の長さがすなわち給与額の高さという図式の中では、在職年数の長い職員ほど有利で、役職に就いて重責を担っているにも拘らず、年齢が若く経験年数が短いため、部下である年長のメンバー

よりも給与額が低いという逆転現象が起っているケースもあったのです。これは若くして能力を認められ責任者に抜擢された職員のやる気を削ぐことになりかねないことで、引いては、職場全体のモラル・ハザードに繋がる恐れがありました。

こうした事態は、法人内でも憂慮され、「年功主義」から「能力主義」への転換が求められましたが、ここにそれを阻む大きな要因がひとつありました。それは、東京都から受けていた人件費補助金である「公私格差是正経費」でした。これは、各施設職員の所定給付に基づく現員現給と措置費内に含まれている額を比較し、不足が生じた場合その差額を交付するもので、職員の待遇向上を図るために財源だったわけですが、反面、基準職については厳しく所定給付に準じた給与額を支給することを求められるなど、彈力性に乏しいものだったからです。

しかし福祉や教育の現場で見聞きする現状はまだまだ厳しい。「我が校は不登校児ゼロ」という報告をしたのだから、ともかく学校に連れてきて欲しい」というある学校での話、「高機能自閉症やアスペルガー障害への療育手帳の交付の基準を緩めるとそれだけ税金がかかる」ということを担当福祉職から感じさせられる話…。データやカウントされる数字には、それぞれ一人ひとりの人生があるのだ、という当たり前のことを見分かっているのだろうか、とその良識を疑う専門職の人たちも少なくない。今、変わりつつある流れが当事者のためになるように、それぞれの役割を委ねずには果たしたい。

(つづく)

(編集人 小山)

編集後記

「自閉症・発達障害支援センター」「支援費」「特別支援教育」などの言葉を身近に聞く機会が多くなった。国が自閉症や支援を必要とする人たちへ施策を表したものと思いたい。又昨今、「不登校児」の比率が全国的に下がってきた、という新聞記事も目にす

る。

ひかりのタイムス

独立第47号

『老人ホームの夏祭りで』

飯田真奈子

今年の八月九日に、近くの老人福祉センターで、夏祭りが行われて、私は、ボランティアの井實さんと一緒に参加しました。昨年は外で行われましたが、今年は台風による悪天候の為、センターの中の特設広場で行われました。

私達は、踊りを楽しむ反面、お手伝いをしました。会場には、沢山のおじいちゃん達、おばあちゃん達がいらして、そのうち、何十人かは車椅子に乗っていました。（昨年もそうでしたが）私は井實さんと共に、お年寄りに話しかけたり、お花の飾りを手につけてあげたりしました。とてもしっかりと、対応する人達がいれば、中には（言葉は悪いかも知れませんが）痴呆症と見られる人達もいました。私は痴呆症と見られる人

に対応した時には、トンチンカンな返事が返ってきて、どう対応していいか困ってしまい、そういうときは、井實さんが対応して下さいました。井實さんは、ボランティア活動をしていらっしゃるので、そういうお年寄りの対応にはベテランでした。

お祭の間は、私は、おじいちゃん、おばあちゃん達に食べ物や、飲み物を配りました。中には少し痴呆症と見られる人で、子どもみたいに、お菓子をもぎ取る人もいました。普段接することのない、沢山のお年寄り達の輪に入つて、色々な人達がいるのだなと思い、普段経験する事のないことが出来ていいなと思いました。お祭の最後には、私達も皆と一緒に踊って楽しみました。そして、退場する時には、私はエレベーターの所まで車椅子を押して、何人のお年寄り達を連れて行きました。車椅子

を押すのは、力の加減が難しかつたです。ちょっと力を入れ過ぎると、突っ走りそうになり、慣れない私は少しドキドキもしました。今回のお祭では、学園でやるのみにただ踊って楽しむだけではなくて、踊りを楽しむプラスお年寄り達の為に、色々お手伝いが出来て、本当に良いお勉強になりました。来年も是非参加したいと思います。

（グループホーム・春のひかり利用者）



「トルコの女神」アトリエ・アウ
トス 浜ノ園武生画

『親子旅行』

小山 徹信

袖ヶ浦ひかりの学園の「親子旅行」も平成十五年度で八年目を迎えた。今年も九月十七日から十八日

まで、福島県の「スパリゾートハワイアンズ」へ行つてきました。親子旅行では、乗り物やホテルの食事など、みなさんそれぞれの楽しみがあります。また、人ごみや公共機関での移動など、学園の外に出て活動する緊張感もあると思います。みんなの期待にそえるかどうか、いつも頭を悩ませる所もあります。

今後は、団体での行動から小集団での旅行、希望の細分化等、親御さんにも負担にならない「旅行」を計画しなければと思っています。

今年は、もう1コース「親子旅行」が計画されています。十一月五日から八日に、親子旅行初の「海外旅行」グアムへ行きます。パワースポーツの取得も、自分で書類に記入する方や、申請所受付での対応等、緊張しながら行っていましたが、みなさんパワースポーツを取得して、「グアム」行きの準備が整つきました。国内旅行もさることながら、さらに期待が膨らむ感じです。

「親子旅行」の「海外旅行道中」は、追つてご報告します！

（袖ヶ浦ひかりの学園支援員）